

2017
平成29年12月号
12

■都議会公明党 足立区選出 東京都議会議員

うすい浩一

通信



発行:都議会公明党 〒163-8001 新宿区新宿2-8-1 TEL:03-5320-7250 FAX:03-5388-1787

第三回 定例会 認知症対策、ユニバーサルデザイン 防災対策などで具体的提案

第三回都議会定例会は9月20日開会し、都議会公明党の一般質問（9月27日）で、うすい浩一議員は初めて的一般質問に立ち、都民の身近な安全・安心に役立つ提案を積極的に行いました。ここにその要旨を掲載いたします。都民の皆様の率直なご意見・ご要望をお聞かせください。



認知症対策の充実を

Q 認知症の疑いのある方を早期発見し、適切な診断・治療に繋げていける総合的な対策が必要と考えるが、都の見解を伺う。

A 平成37年には何らかの認知症の症状を有する高齢者は都内で56万人と推計されており、都の取り組むべき課題だ。認知症の方とその家族が地域で安心して暮せる東京を実現していく。〈小池都知事〉

Q 認知症患者のケアは、行動・心理状態に的確に対応することが重要だ。そのための医療・介護の専門職の育成が急務と考えるが、都の所見を求める。



©KOMEITO

A 医療従事者の研修拠点として、東京都健康長寿医療センターに認知症支援推進センターを設置し、認知症サポート医等のスキルアップを図っている。さらに、東京都医学総合研究所の知見を活用し、行動・心理状態へ適切に対応できる支援手法の開発を進めていく。〈福祉保健局長〉

Q 認知症の症状を理解していれば、家族等は余裕を持って対応できる。住み慣れた地域で認知症の方と家族が安心して暮せるように、認知症の対応で心強い「とうきょう認知症ナビ」を充実・強化するべきと考えるが、都の所見を伺う。

A 都は、本年12月にポータルサイト「とうきょう認知症ナビ」の画面上でチェックリストの項目を入力すると、自動的に集計結果を表示されるようにサイトをリニューアルする。またアクセスしやすいように、スマートフォンにも対応できるようにするなど、今後とも、認知症に関する情報発信を進めていく。〈福祉保健局長〉

ユニバーサルデザインと バリアフリー

Q 都は、地域住民や次世代を担う子ども達に対するユニバーサルデザインの普及啓発を更に推進していくべきだと考えるが、伺う。

A ユニバーサルデザインへの理解を深めるため、小中学校における体験学習や地域住民向けワークショップの開催などを行っている。また、効果的な事例を紹介したガイドラインを作成・配布しており、今年度は、車いす使用者や視覚障害者等の障害特性等を踏まえた配慮や支援内容を盛り込んだプログラムの作成を進めている。今後とも、区市町村や事業者と連携したユニバーサルデザインの普及啓蒙に積極的に取り組んでいく。〈福祉保健局長〉



©KOMEITO

Q 都は、平成31年度からはじまる、次期東京都福祉のまちづくり推進計画の中に、高齢者や障がい者の視点を入れた施設整備を取り入れる等、ユニバーサルデザインのまちづくりを進めていくべきと思うが、見解を伺う。

A 都は現在、福祉のまちづくり推進協議会において、これまでの福祉のまちづくりの進展を踏まえた、より望ましい整備等の方向性について検討を進めている。その中で施設整備マニュアルの改訂に向けて、競技場等で車いす使用者が観覧しやすいサイトラインを確保するなど、2020年東京大会のアクセシビリティ・ガイドライン等を踏まえた整備内容の見直しや、高齢者や障害者などの当事者が参加して行う施設整備の推進を議論しながら、平成31年4月の改訂予定の福祉のまちづくり推進計画に反映させる考えである。〈福祉保健局長〉

●都議会公明党まで、皆様のご意見・ご要望をお聞かせください。

☎ 03-5320-7250

表面 ユニバーサルデザインとバリアフリー の続き

Q 商業施設や公共施設等に設置されているエスカレーターは、ひとたび転倒事故が発生すると、重大事故につながりかねない。エスカレーターの転倒事故を防ぐには、利用者が手すりに掴まることが大切だ。しかし、衛生面の不安から手すりに掴まることに抵抗があるとの声もある。こうした中、JRや東京メトロの駅では、エスカレーターの手すりに抗菌素材でできた転倒防止対策の

シールを貼りつけている。都営地下鉄のエスカレーターでも同様の取組みを進めるべきと考えるが、見解を伺う。

A 転倒防止対策シールは、シールの剥離による機器トラブルや張り替えコスト等の課題がある。今後、試験施工を実施して、これらの課題や手すり利用の改善効果の検証をしていく。〈交通局長〉



大規模水害対策

Q 大規模水害の場合は、広域避難が必要であり、区単独では対応に限界がある。流域及び隣接自治体と連携し、都として広域的避難の体制づくりを進めていくべきと考えるが、調整役としての都の考え方を伺う。

A 東京都地域防災計画において、広域的な立場から、都は避難者受け入れに関する都内自治体間の調整、都県境を越える避難も想定した近隣自治体との協議などの役割を担うこととしている。都は、国のワーキンググループ等に参加し、浸水の範囲や深さ・継続時間など被害状況に応じた域内域外避難の優先度や、自主避難も含めた適切な避難方法等について、検討している。今後とも国の動向等も踏まえつつ、関係自治体などと連携し、大規模水害対策を着実に進めていく。〈総務局長〉

Q 洪水などの災害時に被害を最小限に抑えるためには、住民が地域特性を理解し、水害リスクを正しく認識することが重要である。住民の水害リスクの認識をどのように向上させていくのか、都の考えを伺う。

A 都は、昨年度から区と共に住民対象の水害ワークショップを開始し、今年度は足立区など三団体で実施する。このワークショップでは、参加者が地域の地形等の特性に応じた水害リスクを把握し、発災前から避難行動のタイムラインを作成するなどの取組みを行っている。また、都はワークショップを共催した区に対して、その企画・運営の要点をまとめたマニュアルを提供し、当該区独自の啓発活動の更なる展開を支援している。今後もこれらの取組みを通じ、住民の水害リスクに対する認識をより一層向上させていく。〈総務局長〉



日暮里・舎人ライナーと舎人公園

Q 日暮里・舎人ライナーは、運転手や駅員のいない自動運転システムで運行していることから、痴漢行為や盗撮などの迷惑行為で不快な思いをしてもすぐに訴える場所がなく、事件が表面化しにくい。利用者が安心して乗車できるように交通局が警視庁と連携し、迷惑行為対策を講じるべきと考えるが、見解を求める。

A 新型車両には防犯カメラが設置され、「防犯カメラ作動中のステッカー」を貼り出すことで、迷惑行為の未然防止を図っている。今後は全駅の改札口付近にある列車の運行情報等を提供するディスプレイや新型車両の車内液晶モニターも活用し、迷惑行為の防止を呼びかけていく。〈交通局長〉

Q ライナー沿線の都立舍人公園は、都内屈指の規模と美しい自然を誇る総合公園だ。さらに魅力的な公園になるよう、駒沢オリンピック公園のように民間活力を利用したレストランを整備してはどうか。またこれまで、フィールドアスレチック、バードサンクチュアリ、陸上競技場の夜間照明など設備の充実を求めてきたが、その実現について都の取り組みを伺う。

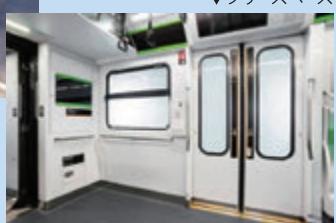
A 東京都公園審議会の答申を受け、民間の創意工夫により都立公園の魅力を高めるモデル事業を実施する。舍人公園のレストランもその該当対象となるか、事業採算性など実現性を検討していく。陸上競技場は平成30年の完成に向け、夜間照明の設置工事を今年度から着手する。バードサンクチュアリは平成30年度、フィールドアスレチックは平成31年度の完成を目指しているところだ。〈建設局長〉



TOPICS トピックス 快適通勤に向けて日暮里・舎人ライナーの車両を増備!!



▲ロングシート



▼フリースペース

特
長

※今回の増備で、日暮里・舎人ライナーは20編成100両になります。

東京都交通局では、日暮里・舎人ライナーの車両を2編成(10両)増備する運びとなりましたので、お知らせします。なお、導入時期は平成31年度末、運行開始予定日は平成32年春頃の予定です。

- 座席を全てロングシートとし、全ての車両に車椅子スペースまたはフリースペースを設置。社内空間を広くして、輸送力増強を図る。
- 各車両に2カ所、防犯カメラを設置し、お客様の安心をサポートする。
- 握り棒の素材に滑りにくいディンプル加工を施し、清潔感を高める。
- 乗り降りをスムーズにするため、両開きドアを採用。
- 車内照明、前照灯及び尾灯をLED化。